

肥育豚への粃米サイレーシ（ソフトグレインサイレーシ）給与技術の確立

【研究のポイント】

養豚ではコストに占める飼料費の割合が6割と高く、近年、輸入飼料の高騰が経営を圧迫している状態が続いています。畜産研究部豚・鶏チームでは、養豚農家の飼料コスト削減を目的とした輸入飼料の代替えとなる飼料の給与試験に取り組んでいます。

そこで

牛で活用されている粃米サイレーシ（以下、SGS）ですが、県内の養豚生産者における利用実績がなく、肥育豚へ利用できないか検討するため試験を実施しました。



試験の内容

肥育試験は、以下の内容で行いました。

- ① 対照区（一般配合飼料のみ）
- ② SGS20%混合区(重量比20%)
- ③ SGS30%混合区(重量比30%)
- ④ SGS40%混合区(重量比40%)

供試豚：20頭（各試験区5頭ずつ飼養）
 試験開始：体重70kgに到達した時点
 試験終了：体重110kgに到達した時点
 飼育管理：不断給餌、自由飲水

※ SGSは、乾燥の生粃米を圧縮膨潤化装置にて圧縮・加圧・加水する過程で組織破壊し、加圧熱(60~70℃)にて熱処理後、乳酸発酵させサイレーシを調製したものを試験に使用しています。

成果のポイント

表1 発育成績・枝肉成績および飼料コスト・飼料要求率の比較（5頭平均）

	開始体重 (kg)	出荷体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	歩留まり (%)	飼料コスト (円/頭)	飼料要求率
対照区	69.5	116.9	72.0	61.6	13,995.4	3.71
SGS20%区	70.1	112.3	70.6	62.9	12,162.6	4.17
SGS30%区	69.9	113.1	70.9	62.7	12,242.6	4.43
SGS40%区	69.0	114.2	71.9	62.9	12,028.1	4.54

表2 肉質分析（ジューシーさ）の結果

	水分 (%)	伸展率 (cm ² /g)	加圧保水力 (%)	圧搾肉汁率 (%)	加熱損失 (%)
対照区	68.7	15.8	88.0	34.0	23.8
SGS40%区	69.0	16.8	90.1	32.4	25.9

- ① 対照区とSGS40%区で、発育成績および枝肉成績に有意差は認められませんでした（表1）。
- ② SGS40%区では対照区と比較して飼料コストが低減し、利益率が上昇しました（図1）。
- ③ 肉質分析で豚肉のジューシーさを測定したところ、対照区と有意差のない豚肉生産が可能であることが示唆されました（表2）。

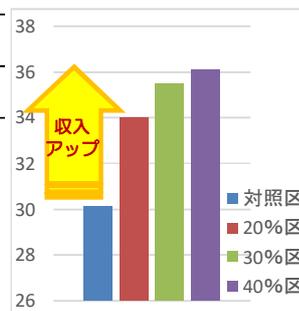


図1 利益率の比較
 ※利益率 = (収入 - 飼料コスト) / 収入 × 100で算出

【研究の成果】

【関係者の声】

家族で粃米サイレーシの開発に取り組んでいます。地産地消で安全安心なものを消費者に届けたいと思い、繁殖経営の傍ら県内産の飼料米で発酵飼料を製造しています。牛だけでなく、幅広い畜種に粃米サイレーシを活用してもらいたいです。

(株)草屋本舗 代表取締役 西園隆盛さん



生産されたSGS

【連絡先】

担当：畜産研究部 豚・鶏チーム
 TEL：0974-22-0673（問い合わせは企画指導担当へ（0974-76-1214））
 住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8